

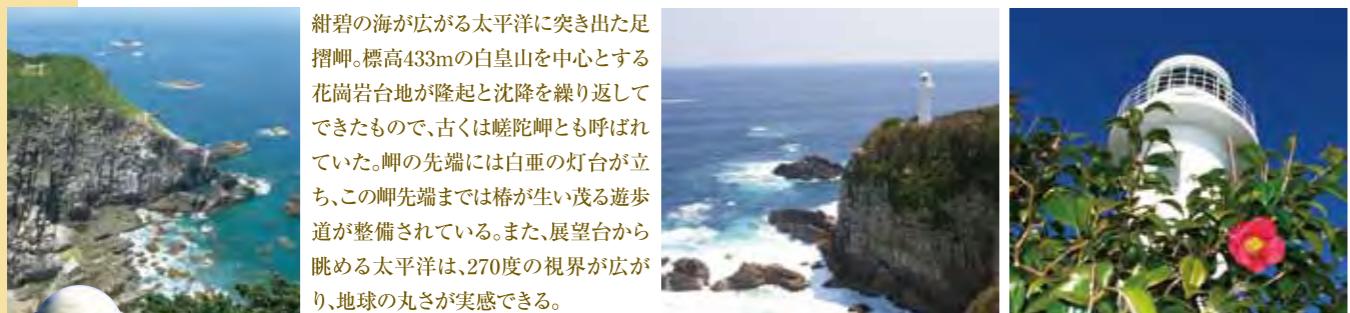
足 摺

ASHIZURI

太平洋の荒波に浸蝕された白い花崗岩。その上に生い茂る
亜熱帯性の緑の樹木。四国最南端に突きだした足摺岬周辺は
黒潮打ち寄せる温暖な気候の中、
自然が織りなすダイナミックな景観が展開する。



ASHIZURI-UWAKAI KOKURITSUKOEN TOSASHIMIZU ASHIZURI MISAKI



紺碧の海が広がる太平洋に突き出た足摺岬。標高433mの白山を中心とする花崗岩台地が隆起と沈降を繰り返してできたもので、古くは嵯峨岬とも呼ばれていた。岬の先端には白亜の灯台が立ち、この岬先端までは椿が生い茂る遊歩道が整備されている。また、展望台から眺める太平洋は、270度の視界が広がり、地球の丸さが実感できる。



日本人初の国際人
ジョン万次郎

漁に出ていた船が嵐に遭遇。無人島での生活を経てアメリカに渡り、長い歳月をかけて日本へ戻り、日本の国際化に尽力したジョン万次郎は、足摺岬西側の中浜地区の出身。現在、足摺岬の遊歩道入口には、ジョン万次郎の銅像が立つ。



足摺岬周辺を巡る遊歩道の途中には、弘法大師・空海ゆかりの不思議な伝説が残る場所がある。これらの場所を巡って大師の残した不思議を体験してみよう。

其之 壱



亀石
亀呼場から大師が亀の背中にのって海中の不動岩に渡ったといわれ、この亀石は、亀呼場の方向に向かっている。

其之 弐



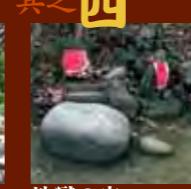
汐の満干手水鉢
岩の上に小さなくぼみがあり、汐が満ちている時は水が溜まり、汐がひいているときは水がなくなると言われている。

其之 参



ゆるぎ石
大師が金剛福寺を建立の際に見発された石で、石を搖らした時の動搖の程度によって孝心を試すと言われている。

其之 四



地獄の穴
穴に小銭を落とすと、チリンリンと音がして落ちていく。その穴は金剛福寺の本堂のすぐ下まで通じていると言われている。

其之 五



弘法大師の爪書き石
大きな岩肌に大師が爪で「南無阿弥陀仏」と六文字の名号を彫っていると言われている。

其之 六



亀呼場
大師が前の不動岩に亀の背中に乗って渡り、身体安全、海上安全の祈祷をされたと言われている。

其之 七



大師一夜建立なづの華表
大師が一夜で華表(どり)を作らせようとしたが、天邪鬼が鳥の鳴き真似をしたことで、大師は夜が明けたと思いやめたと言われている。

波の浸蝕作用でできた 白山洞門

白山神社から南へ続く遊歩道を下りた場所にある白山洞門。荒々しく打ち寄せる太平洋の波が、大きな岩山に高さ16m、幅17m、奥行き15mの大きな穴を開けている。



花崗岩の海蝕洞としては日本有数の大きさを誇り、昭和28年、高知県の天然記念物の指定を受けている。遊歩道で近くまで行くことができるので、その迫力をぜひ体験してみよう。また2009年にオープンした「万次郎足湯」から展望することもできる。



足摺にあった巨石文化? 唐人駄場遺跡

足摺半島の先端近くの海岸段丘の一角に、縄文時代早期（紀元前5000年頃）から弥生時代にかけての石器や土器片が数多く出土。一帯にはストーンサークルと思われる石の配列や、高さ6~7mもある巨石が林立する唐人岩があり、太古の巨石文明の名残りではないかと言われている。



黒潮が打ち寄せる場所 臼響

黒潮が日本で最初に接岸する場所と言われ、見事な花崗岩の断崖は、磯釣りのメッカとしても知られている。海に突きだした岩山の上には、魚を招き寄せるという竜宮神社の祠がある。また、東の足摺岬、西には叶崎が見渡せる展望はなかなかのものである。

